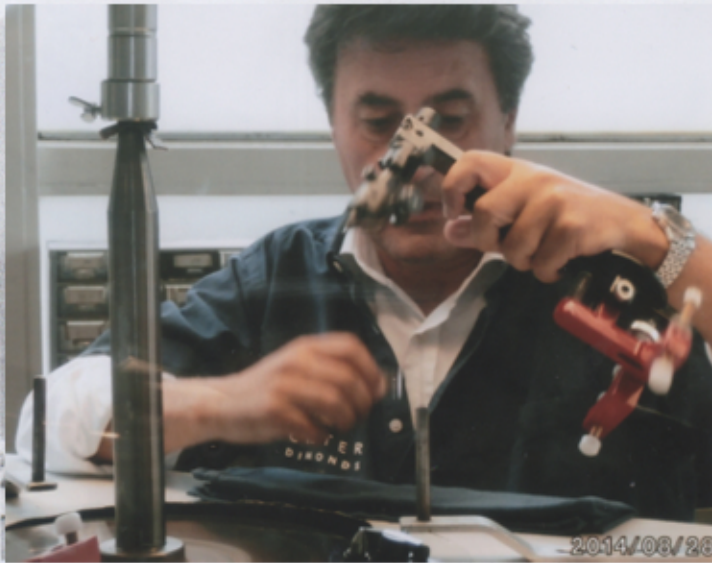




ユダヤ人とダイヤモンド

ベルギー編⑥

ベルギー第二の都市、ルギー北部に位置する。アントワープはオランダ、ペリカン通りと呼ばれる。アントワープの駅前地区はユダヤ人街で、そこが世界有数のダイヤモンド加工と取引の中心地である。



ダイヤモンド加工工房で

今回のオランダ・ベルギーの旅に出るまで、私の両国に關しての知識は

皆無に等しく、出発前に慌てて司馬遼太郎の「オランダ紀行」を読んだ。オランダの話だけだと思つていたら、司馬は国境に近いアントワープも訪れ、ユダヤ人とダイヤモンドについてかなり詳しく書いている。

それによると、硬いダイヤモンドを固めて研磨する方法を考え出したのはブルージュに住むユダヤ人で、この研磨技術によりダイヤモンドの価値は一段と上がり、ブルージュは世界有数のダイヤモンド加工と取引地となる。しかし、北海とブルージュを結ぶ水路が沈泥のため大型船舶の出入りができなくなる

と都市機能を喪失し、ブルージュに代わってアントワープが貿易などの中心を担うことになる。ここは北海から八十キロ、内陸に入った所だが、スヘルデ河という大きな河が北海に流れ込み、アントワープは世界有数の

港町として発展する。当然のことながらダイヤモンドの加工・取引もユダヤ人ともどもアントワープに移った。当時、この地方を実質的に治めていたのはカトリックの国、スペインで、ユダヤ教のユダヤ人は差別されていた。十六世紀ドイツを中心にルターなどによる宗教改革が起こると、オランダはプロテスタント勢力としてスペインと争い、独立を勝ち取る。その結果、アントワープのユダヤ人は民族差別がなく宗教も自由なオランダの首都アムステルダムに移動する。

こうして近世はアムステルダムがダイヤモンドの加工・取引の中心になった。この歴史の教訓から、第二次世界大戦が終わるとアントワープは民族や宗教による差別を改めると、アムステルダムのダイヤ

を扱うユダヤ人は再びアントワープに移り住み、今やベルギーは世界のダイヤモンド市場の七割以上を占め、アントワープがその中心である。

私たちのわずか十人のツアーも「ダイヤモンド工房見学」という名のもとにダイヤモンド店に連れて行かれた。簡単に工房見学は終わり、ダイヤが展示してある部屋に案内される。「ここにあるのはお土産にお手ごろな四十万円前後のもので」と説明する二人の女

性は日本人。お手ごろだと買う日本人がいるのだから。それはともかく「オランダ紀行」を読んでいたお陰で、ベルギーとダイヤモンドとユダヤ人のことを少しばかり肌で知ることができた。ユダヤ人がイエスを処刑したからでもあるまいが、キリスト教世界になったヨーロッパで、ナチスドイツを含むユダヤ人差別の歴史が、名ばかりとはいえカトリック信者の私の胸に重くのしかかった。

それによると、硬いダイヤモンドを固めて研磨する方法を考え出したのはブルージュに住むユダヤ人で、この研磨技術によりダイヤモンドの価値は一段と上がり、ブルージュは世界有数のダイヤモンド加工と取引地となる。しかし、北海とブルージュを結ぶ水路が沈泥のため大型船舶の出入りができなくなる



土産に手ごろ(?) なダイヤモンドを展示